

4 環境教育WGの活動

(1) 取組内容と成果

赤谷プロジェクトの環境教育に関する様々な検討を実施し活動に反映させるため、平成22年度は環境教育WGを計3回開催しました。

特に第3回は、環境教育WGとしては初めての現地検討会を小出俣エリアで行いました。小出俣エリアにおいて、季節によって観察できる素材と、年間を通して観察できる素材に区分し、メンバーで素材集めを行いました。今回は冬期（12月）の実施であったため、季節によって観察できる素材としてオムラサキの幼虫を探ることができました。



現地検討会での素材探しの様子

(2) 来年度に向けて

今後も素材集めを実施し、赤谷プロジェクトの普及と赤谷の自然を紹介しながら自然の恵みを学ぶことのできるような教材としてまとめることにより、更に充実した環境教育の実施に役立てることとしています。

5 溪流環境の復元に向けた取組

(1) 溪流環境復元WGの活動

溪流環境復元WGでは、溪流生態系における生物多様性復元について、平成18年度から検討を進めています。

今年度は、WGを計3回開催し、平成23年3月に策定された赤谷の森管理経営計画書に盛り込む内容等について検討しました。

また、関東森林管理局が開催する「新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査検討委員会」について、オブザーバーとして計2回参加しました。

	開催日	WGの主な検討課題
第1回	6月17日	<ul style="list-style-type: none">・ 流域別調査の結果の共有・ 次期地域管理経営計画に反映すべき事項の検討・ 平成22年度茂倉沢治山事業の実施予定の共有
第2回	8月19日	<ul style="list-style-type: none">・ 赤谷の森管理経営計画書（案）の検討・ 平成22年度新治地区茂倉沢施設整備計画調査の概要及びスケジュールの共有
第3回	11月18日	<ul style="list-style-type: none">・ 赤谷の森管理経営計画書（案）の最終検討・ 平成22年度新治地区茂倉沢施設整備計画調査検討委員会への要望事項の検討・ 今後のWGにおいて検討すべき事項の検討

(2) 来年度に向けて

これまでWGでは、茂倉沢を中心に溪流の上下流の連続性の確保等について検討を行い、関東森林管理局及び新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査検討委員会と連携しつつ取組を進めてきました。

今後は、茂倉沢に関するモニタリング結果に留意しつつ、赤谷プロジェクトエリア内の他の溪流環境の把握のための調査等について検討していく必要があると考えています。

6 地域づくりWGの活動

赤谷プロジェクトの目的の一つである「持続的な地域づくり」を達成するため、平成22年度は計6回のWGを開催し、具体的な取組について検討を行いました。（ムタコの日については、詳細は「IV 地域との連携」を参照。）

平成21年度末に「赤谷の森基本構想」が完成したことから、各区長等に1時間程度ずつ、基本構想の概要説明と赤谷プロジェクトに関する聞き取り調査が行われました。その結果、様々な意見や要望等が集まり、プロジェクトの現状と今後の課題が明確になりました。

フットパス計画（旧三国街道の歩道整備と活用）については、今後マップ作りを行うための準備として、そのデザインや旧街道の情報収集を行う必要があります。特に、町（商工観光課及び観光協会）との定期的な意見交換が求められることから、その進め方を具体的に検討することとなりました。

獣害対策については、生物多様性とは非常に難しい関係にあり、明確な結論は出ていませんが、町・県・国が連携して考えていくべき問題であり、当面はそれぞれのデータ等を持ち寄って情報交換を行いながら進めていく必要があります。

なお、9月には、みなかみ町議会において、地域協議会会員であり町議会議員である林一彦氏が町長に質問をする機会を得たことから、WGで質問内容を検討しました。これを契機として、赤谷プロジェクトの重要性を訴えつつ、みなかみ町の姿勢を伺い知ることができたのは大きな成果であったと思います。



WGでの検討風景

7 フィールド利用管理WGの活動

赤谷プロジェクトでは、コアセクター3団体及びサポーターの調査研究活動を円滑に進めるため、いきもの村や林道の利用について独自の利用ルールを定めています。

いきもの村の施設利用ルールについては、いきもの村を自然観察フィールドとして維持・整備していくため、関係者が守らなければならないルールとして平成17年に設定されました。プロジェクト発足から7年が経過し、今後、プロジェクトの活動の更なる活性化を図る観点から、利用ルールの見直しを行うこととなり、平成23年1月にWGを開催し検討した結果、平成23年度から新たなルールを適用することとなりました。

なお、フィールド利用ルールについては、必要に応じて、今後も見直し等を検討します。

いきもの村の施設利用ルールの主な改正点

改正後	改正前
<p>①日中の利用</p> <p>コアセクター3団体が主催・協力する企画、並びにサポーター・グループが主催する企画で、責任者が明確かつコアセクター3団体のいずれかの担当者、あるいは<u>サポーター・グループの責任者</u>が同行する場合があります。</p> <p>②夜間に及ぶ活動を伴う利用</p> <p><u>複数名を基本とし、コアセクター3団体が主催する企画で、責任者が明確かつ、コアセクター3団体のいずれかの担当者（コアセクター3団体のいずれかから依頼されたサポーターを含む。）</u>が同行する場合があります。</p>	<p>①日中の利用</p> <p>コアセクター3団体が主催・協力する企画、並びにサポーター・グループが主催する企画で、責任者が明確かつコアセクター3団体のいずれかの担当者、あるいは<u>サポーター世話人</u>が同行する場合があります。</p> <p>②夜間に及ぶ活動を伴う利用</p> <p>コアセクター3団体が主催する企画で、責任者が明確かつ<u>原則として国有林野職員</u>が同行する場合があります。</p>